

桜美林大学

INFORMATION

オープンキャンパス

6/12
SUN

7/24
SUN

8/6・7・8
SAT SUN MON

※学群別オープンキャンパス

8/28
SUN

詳細は
受験生サイトを
チェック!



桜美林大学の入学者選抜が最大限に評価するのは、高校時代に主体的に取り組んできた活動だ。2022年度には探究学習に焦点を絞った「探究入試」も導入。また、国公立大学志望者が受験しやすい選抜制度を展開するなど、特別な取り組みや強みを持つ多様な受験生へと門戸を広げている。

多面的に学力の3要素を評価する総合型選抜

「探究入試 (Spiral)」は探究活動を評価

桜美林大学の総合型選抜は、知識や能力に加え、適性や学修に対する意欲、目的意識などを多面的・総合的に評価する入学者選抜だ。一次審査（書類審査）では学力の3要素を確認し、受験生の「学びの潜在力」や「考える力」などを多面的に評価する。加えて二次審査（課題図書の内容理解度を問う口頭試問を含む面接、芸術文化学群は実技審査等を含む）を実施し、各審査の内容をもとに総合的な審査のうえ合否判定を行う。

2022年度入学者選抜からは、特に高校生活における探究学習について評価する「探究入試 (Spiral)」を導入した。これは、高校までの探究的な取り組みを通じた成長と、入学後の学習意欲を評価する選抜である。同学では、「どのように探究学習をすればいいかわからない」という高校生向けに、「ディスカバ!」という探究学習の支援プログラムも用意しているため、ぜひ確認してほしい。

学校推薦型選抜では課題図書による

読書レポートを課し、面接で内容の理解度を問う

指定校制学校推薦型選抜は、書類審査、志望理由書、読書レポート、面接にて試験を実施。面接では志望動機を中心に提出書類などの内容についても問う。また、「課題図書」の内容理解度も含む。

公募制学校推薦型選抜は、書類審査、志望

理由書、読書レポート、面接・実技にて試験を行い、指定校制と同じく面接では志望動機を中心に、「課題図書」の内容理解度を含む提出書類などの内容も問う。芸術文化学群は「実技型」「作品審査型」または「小論文型」のいずれかを選択する。公募制については他大学との併願も可能だ。

大学入学共通テスト利用選抜では

国公立大学志望者も強みを発揮できる

一般選抜では、高校での学びや経験を通して、大学教育に必要とされる基礎学力の到達度を確認するために桜美林大学独自の入学者選抜を実施する。3科目型や2科目型、理系型など多種多様な方式があり、得意・不得意科目によって受験プランを選択できる。また「理科」「数学」については一部の日程において記述式問題を出題。その他の科目・教科においては、「思考力・判断力・表現力」をさらに精査して出題する方向で検討している。英語資格・検定試験の活用については、所有するスコア・級を大学が定める換算表に基づき得点換算し、試験当日の英語の点数と比較して高得点のものを合否判定に使用する。

大学入学共通テスト利用選抜では、2科目・3科目型だけでなく、4科目・5科目型も用意。特に幅広い教科を学んできた国公立大学第一志望の受験生にとっては、強みを大きく発揮できる選抜方式だ。文系・理系の壁を越えた学群制の学びを採用している桜美林大学に適した入学者の選抜をめざしている。

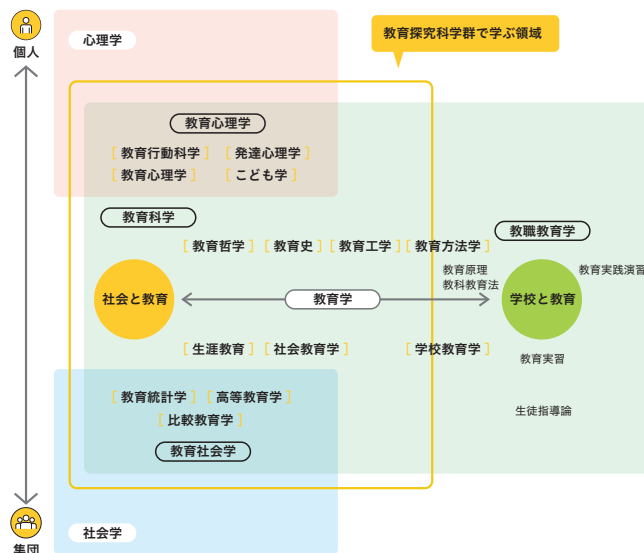
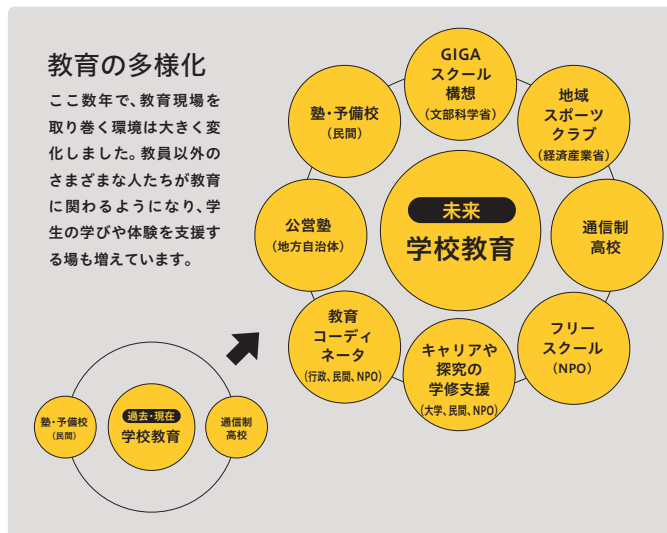
期待する受験生像



学長補佐(入学・高大連携)
入学部(アドミッションオフィス) 部長
高原 幸治

桜美林大学が求めているのは、主体性を持って物事に取り組んだ経験を持つ受験生です。初めは誰かに言われて取り組んだことでも、その過程で熱中し、真剣に向き合うようになった経験が誰しも一度はあると思います。本学の「ディスカバ!」でも課外活動の場を提供しています。自分自身や周りのコミュニティ、社会や世界に興味・関心や疑問を持ち、自分は何ができるかと考え、行動に移す経験を何度も繰り返す。それが、将来の目標や深く研究をしたい学問につながります。そうした情熱を持つ受験生に多く出会えることを願っています。

教育探究科学群の設置背景と学ぶ領域



アロー総研のフカボリ①

2023年4月に「教育探究科学群」を開設予定

2023年4月、桜美林大学に新学群が誕生する。その名も「教育探究科学群[※]」——。「教育学の新スタイル」と打ち出している同学群の学びの中心となるのは、「教員になる」ための教育学ではなく、「社会とつながる」ための教育学だ。この新しい学群が生まれる背景には、ここ数年の教育現場を取り巻く環境の大きな変化がある。

「かつては、塾や予備校、通信制高校など限られた機関が学校教育をサポートしていました。しかし現在では、地方自治体が運営する公営塾やスポーツ教室、キャリアや探究の学修支援を行う教育コーディネータ、ICTツールを活用した新しい通信制高校など、学校教育をサポートする場や人が多様化しています。そうした教育関連業界だけでなく、一般企業における人材育成や人事評価などの部門においても『教育』の知識は活かされます。新学群では、教職課程だけでは補えない、社会課題や自身のキャリアと向き合う教育学を展開し、幅広い業界での活躍をめざします」(高原部長)

好奇心から学びが始まる

学校以外にも社会のあらゆるところに、教育的活動は存在している。この考え方を中軸に据える教育探究科学群では、教員養成課程で学ぶ生徒指導論や教科教育法などではなく、教育社会学や教育心理学を中心に、教育学とその周辺領域を学んでいく。高原部長は、「学びのすべては学生自身の好奇心から始まり、それを向学心へとつなげる」と語る。

「1年次から、学生が自らの興味関心に応じて主体的に課題を設定し、国内外のフィールドワークに出かけていくことを重視しています。まず行動を起こすことから始まり、そのなかで疑問や課題に気づき、解決するために必要な知識を身に付けていく。同時に高度なリサーチ手法や学生同士で教え合いながら学ぶ『ピア・ラーニング』の手法などを身に付けながら、実践を繰り返していきます。教育学をベースにしたこの経験によって、自らが前向きに学び続け、成長を続けていくための自己変革力と、社会により変化を促す発信力を身に付けられると考えています」(高原部長)

※設置申請中のため、変更になる可能性があります。

アロー総研のフカボリ②

高校への出張授業プログラム「ディスカバ! For School」

桜美林大学では、中高生の主体的な学びや探究学習、キャリア形成を支援するプログラム「ディスカバ!」を2019年より展開している。2020年度からはオンラインでの開催に加え、高校へ出張授業プログラム「ディスカバ! For School」がスタートした。

「高校では2022年度より『総合的な探究の時間』が始まり、大学入試でもその活動内容を問うことが増える予想されます。しかし、高校の先生方のなかには『具体的に探究で何を行えばいいか』『どのようなテーマを設定し、活動を促していけばいいか』といった悩みを抱えていると聞いています。『ディスカバ! For School』はそうした先生方に向けて、専門のスタッフが具体的な授業内容を出張実施する取り組みです。探究学習の意義を学ぶ『探究 導入編』や、問い

を立てることに特化した『探究 テーマ設定編』、情報収集について学ぶ『探究 調査・分析編』など、学校の課題に応じて出張授業を行っています。加えて、キャリア形成支援では自己探究のワークショップを通して大学入試へ向けた道筋を明確にする『総合・推薦型入試準備セミナー』を用意しています」(高原部長)

具体的な内容について、例えば「探究 導入編」は大学の教授が監修したテーマに沿って探究活動を行う。探究テーマのなかには「SDGsを5歳児に伝えるプランを考えよう」、「平和を伝える旅行プランを提案しよう」、「ディズニーの新商品を考案しよう」等、多種多様なものがあり、高校生の興味を惹くテーマで探究に取り組むことが可能だ。

『ディスカバ!』公式サイト: <https://discova.jp>

出張授業の依頼: discova@obirin.ac.jp